

日本美術史研究の上で、作品の制作年代や制作状況を知るための最も直接的な資料として重要なのが銘記類である。

本書は室町時代の盛期にあたる15世紀の100年間に、主として日本で制作された絵画に記された銘記類のうち、年銘をとともなうもの833件を翻刻し、年代順に集成したものである。

定価 19,950円（本体 19,000円＋税）

ISBN 978-4-8055-0652-3 C3071

A5判 上製函入 本文 720頁

日本絵画史年記資料集成 十五世紀

東京文化財研究所 編

本書の概要

およそ文化財の史的研究には、作品自体についての様式的研究と、その作品にまつわる文献的研究が車の両輪のごとく不可欠である。そのいずれにおいても、本書の対象となった直接作品に書き込まれている銘記類は、作品の鑑識、制作年代の決定などについての基礎となるものであり、さらに、このような記載を欠く多くの作品の研究に対して重要な指標となるものである。そのことは、昨今の研究環境の変化に左右されるものではない。にもかかわらず、有形文化財のなかに相当の比重を占めている絵画の分野において、賛文、奥書、裏書等の年記資料を集成することは、従来全く行われてこなかった。それぞれの研究分野においてそれぞれに、時には部分的になされているにすぎなかったのである。そこに一石を投じたのが『日本絵画史年記資料集成 十世紀―十四世紀』であった。本書はその続篇として十五世紀を対象にまとめたものである。

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

TEL 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取り扱い

包括的な基礎資料として、また個別作例への橋渡し役として、
今後の文化財研究に不可欠の書です。

本書の特色

- 1、東京文化財研究所企画情報部の研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」（平成 18～22 年度）の成果報告書で、昭和 59 年刊の『日本絵画史年記資料集成 十世紀—十四世紀』の続篇。同研究所の長年にわたる蓄積の成果である。
- 2、一般的な日本美術史年表に採録される約 200 件に、展覧会図録、地方史等に個別に紹介される作例を網羅的に加えることで、全 833 件、空白年無し、という大幅な増補を実現。
- 3、データブックとしての機能を充実させるため、作品毎に参考文献の情報を、巻末に参考書目と索引を追加。

目次組見本

本文組見本

既刊のご案内

日本絵画史年記史料集成 十世紀—十四世紀

東京国立文化財研究所 編

定価 8,925 円（本体 8,500 円＋税）

A5 判 上製函入 本文 340 頁 口絵 84 頁 ISBN978-4-8055-0044-6 C3071

平安時代中期から南北朝時代までの 500 年間に日本で制作された絵画に関する作品のうち、その年記のあるもの 324 点を 430 枚の写真と銘文の翻刻で年代順に集成したものである。